

会場での質疑応答の記録

原野谷中学校区

Q 1 :	平成31年3月に原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会が出した提言に対して、市はどのような回答をしてきたのか。
A 1 :	提言書をいただいた後に、掛川市全体の再編の検討を行っていたが、それに時間がかかってしまった。全体の方向性が決まれば、提言書をいただいている原野谷や城東は地域の再編に対する熟度が高いという認識の中で、早く進めることができるのではないかと考え進めてきた。現在、こうして市内全地区をまわらせていただいて、中学校区の構成、一貫教育、一体校等への御理解をいただいた上で、これから順番を決める作業を行っていく。市全体の順位付けができたところで、個別に中学校区に入って具体的な検討を行っていきたいと考えている。
Q 2 :	今回の意見交換会は、9中学校区を回って市民の意見をしっかりと聴いて、今後の優先順位を決める上での参考にしていくということでしょうか。
A 2 :	そのとおりである。
Q 3 :	実際の時期は、スタートする時期の目安はないのか。
A 3 :	明言することは難しいが、教育委員会とすると今年度中には、再編に着手する順番を決めて再編計画案に記載し、パブリックコメントを実施したいと考えている。
Q 4 :	校舎の老朽化と学校再編は違う問題ではないのか。
A 4 :	学校の再編は老朽化が進んだ学校から着手していきたいと考えている。児童生徒数の推移や地域の合意形成の状況等も踏まえて検討していきたいと考えている。再編の順番が後になる学校の施設については、長寿命化の計画を並行して作って子どもたちが安全に使えるように維持管理を行っていく。
Q 5 :	現在の原田小に対する対応状況は。
A 5 :	2つの連続する学年の子どもの数が合わせて16人（小学校1年生が係わる場合には8人）以下になると2つの学年を1つの学級にすることができると規定されている。教員は県から配置されている。実際には16～15人の場合には複式を解消するために教員が1名加配（追加）されるため、複式にはならない。県のルールで教員が配置されるため、それに従わざるを得ない。仮に複式になった場合には、1学級の中に2つの学年が入る形になる。複式学級の手引き等を参考にしながら、子ども達にとってよりよい教育をできるだけ進めていくことになる。
Q 6 :	学校を再編して学校数が減った場合には、施設の維持費や先生の人件費が安くなるから、その浮いた分を他に使えるのではないかという意見も出ていたが、実際のお金の流れはどのようなのか。
A 6 :	教職員の人件費は県が負担しており、市からお金は出ていない。教員数が減っても市への財政的な影響はない。施設の維持、運営については市の予算で賄っている。3つの学校が1つになれば節減はできる。ただし、節減することが目的ではないので、教育効果のより高い施設形態にしていきたいということで小中一体校というような話をさせていただいている。

Q 7 :	今後さらに子どもの数が減っていった場合にはどうなるのか。
A 7 :	現段階での検討は40年後くらい先を見据えた検討を行っている。しかし40年後が最終形ではない。社会情勢の変化や環境が変わる中で再度考えていかなくてはいけないと思っている。そうした中で、現在の学校の校舎は鉄筋コンクリート造のものが多いが、ライフサイクルが少し短い鉄骨製や木質を使った校舎についても検討していく必要があると考えている。
Q 8 :	学校がなくなるとコミュニティがなくなるという不安があるが、市としてはどう考えているか。
A 8 :	現在、学校の運営は学校と地域が一体となって運営するということが前提となっている。学校の再編が行われたとしても、学校と地域の関係が密接であるということで変わりはない。そうした中で、市長部局においてまちづくり、自治会やまちづくり協議会の活動について検討していきたいと考えている。
Q 9 :	通学のこと、制服のことについて
A 9 :	<p>通学については、現在、小学生で4 km以上、中学生は6 km以上の距離がある場合には、路線バスの定期券の支給、またはスクールバスを運行している。スクールバスについては、学年によって下校の時間が異なるので、1台のスクールバスが何往復する形になっている。天浜線の利用については、登下校にちょうどよい列車が何本かあればよいが、中学生の部活帰りの子が駅に一人で長い時間待つという事になると少し心配な部分がある。</p> <p>制服については、市内の中学校の制服の統一に向けて調整を行っている。統一の目的としては、保護者の費用負担の軽減が大きなものとしてある。切り替えの際には5年くらいの猶予期間を設けたいと考えている。詳細は広報等でお知らせしていく。</p> <p>また、中学校の部活動の地域移行についても検討を行っている。子ども達がニーズあった活動をできるように様々な関係団体と調整を行いながら進めている。こちらについても広報や市のホームページ、学校などを通じてお知らせをしていきたい。</p>
Q 10 :	今日の意見を今後どう生かしていくのか。
A 10 :	<p>原野谷地域の皆様には長くお待たせをして申し訳ない。</p> <p>残り2校の中学校区も含めてそれぞれの地域の意見を聞いていく。原野谷学園については、子どもの数が少なくなって再度の再編を心配する声もあったが、我々としては中学校単位で学園化構想を進めてコミュニティも作ってきたので、本来であれば中学校区単位で進めたいと考えていた。皆さんが、学区を変えてでも子どもの数がある程度確保するというのであれば、さらに検討の時間がかかると思う。教育委員会は子どものことを第一に、子どもファーストで考えている。学校だけで施設を作るのであれば、私はすぐにでも作りたいと考えている。財政の面、防災の面で心配がある。地域性、中学校区学園化構想の習熟度も中学校区ごとに異なる。子ども達の安全面のこと（老朽化度）などを踏まえて、どのような形で再編を進めていくのがよいのか市長部局ともしっかり協議していく。より良い方法で再編を進めていく。</p>

市長総括：

長時間、暑い中、精力的に議論いただきありがとうございます。

頂いたそれぞれの意見については重く受け止めさせていただきたい。原野谷が7会場目になるが、協議が進んでいるということで、小中一体校を作ってほしいという思いがこれまで一番強く感じた。提言書の内容に基づいて早く進めてほしい、遅い、これまで何をやってたのかというお叱りもいただいた。この点については、ここまで時間がかかってしまったということについてお詫び申し上げる。

もう一点感じたのは、提言書に基づいて新しい学校を作りたいというのは分かったが、この地域として学校の規模とか学区のイメージが人によって様々に異なっていることが分かった。単純に考えれば、今の中学校区で学区の再編を伴わない小中一体校を作るというのが一番シンプルな案であるが、既に原田、原谷の未就学児童の人数を見ると複数学級を維持していけない人数（35人以下）になっている。今の中学校区を前提に再編を行ってもよいのかという不安の声が出ている。それもあって和田岡と一緒にしたらどうか、和田岡に加えて桜木も巻き込んでいったらどうかという案が出ていた。ざっくり言っても3つのパターンが考えられる。和田岡とか桜木にはまだその話は伝えていない。皆さんがよろしければ、桜が丘中学校区の意見交換会で伝えてみようかとも思っている。そういうことを始めていかないとこの話の結論は出ない。新しい校舎をという話にはならないので、順次段階を追って、進めていかないといけないと思っている。いずれにしても今日の意見交換会を切っ掛けとして、再編の議論を再開をして、加速をする。原野谷だけの話だけではなく、学区の再編を行うのであれば全体の話にもなってくるので、そのあたりの整合性を図りながら進めたい、今後精力的に議論を積み重ねていきたい。原野谷は、地域合意のできた中学校区であり、中学校の校舎がかなり老朽化していることも承知しているので、できる限り早期に進めたいと思っている。引き続き御協力をお願いしたい。